



# 温泉分析書

道薬検温第763号

1 申請者 札幌市中央区南3条西2丁目12番2号  
株式会社 大東インターナショナル 代表取締役 丹山 春雄

2 源泉名および湧出地 温泉 (源泉名 函館乃木温泉)  
北海道函館市乃木町69-15

3 湧出地における調査および試験成績

(イ) 調査および試験者 : 財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター 阿部 憲慎

(ロ) 調査および試験年月日 : 平成18年9月4日

(ハ) 泉温 : 64.3℃ (気温: 25.7℃) (ニ) 湧出量 : 483 ℓ/min (動力揚湯)

(ホ) 知覚的試験 無色 澄明 塩味 弱硫化水素臭

(ヘ) pH 値 6.4 (ト) ラドン (Rn) :

4 試験室における試験成績

(イ) 試験者 : 財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター 吉田 博文

(ロ) 分析終了の年月日 平成18年9月19日

(ハ) 知覚的試験 弱黄色 澄明 赤褐色の沈殿物有り 塩味 ほとんど無臭 (採水後16時間)

(ニ) 密度 1.0046 (20°/4℃)

(ホ) pH 値 6.38

(ヘ) 蒸発残留物 8.497 g/kg (180℃)

5 試料1kg中の成分 : 分量および組成

(イ) 陽イオン			(ロ) 陰イオン			
	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)		ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
水素イオン	H <sup>+</sup>		フッ素イオン	F <sup>-</sup>	0.7	0.03
ナトリウムイオン	Na <sup>+</sup>	2196.	塩素イオン	Cl <sup>-</sup>	3733.	77.14
カリウムイオン	K <sup>+</sup>	131.6	水酸イオン	OH <sup>-</sup>		
アンモニウムイオン	NH <sub>4</sub> <sup>+</sup>	0.4	硫化水素イオン	HS <sup>-</sup>	0.1	0.00
マグネシウムイオン	Mg <sup>2+</sup>	172.7	チオ硫酸イオン	S <sub>2</sub> O <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	-	-
カルシウムイオン	Ca <sup>2+</sup>	531.2				
アルミニウムイオン	Al <sup>3+</sup>	-	硫酸イオン	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>	814.4	12.42
マンガンイオン	Mn <sup>2+</sup>	0.1	炭酸水素イオン	HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	868.4	10.42
第一鉄イオン	Fe <sup>2+</sup>	3.6	炭酸イオン	CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	0.2	0.01
第二鉄イオン	Fe <sup>3+</sup>	-				
計		3036.	計		5417.	100.

(イ) 遊離成分

非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタ珪酸	H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub>	69.7	0.89				
メタ硼酸	HBO <sub>2</sub>	27.8	0.63				
計		97.5	1.52				

溶存物質 (ガス性のものを除く) 8.550 g/kg

溶存ガス成分

	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素	CO <sub>2</sub>	370.7
遊離硫化水素	H <sub>2</sub> S	0.6
計	371.3	8.44

成分総計 8.921 g/kg

(ニ) その他微量成分 銅イオン: 0.003mg/l 亜鉛イオン: 0.012mg/l 総ヒ素: 0.067mg/l  
アルミニウム、カドミウム、鉛及び総水銀 検出せず。

6 泉質 : ナトリウム-塩化物泉 (等張性中性高温泉)

7 禁忌症、適応症 : 「温泉分析書別表」中5に記載する。

平成18年9月20日

登録分析機関 登録番号 北海道第2号

財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査セン



# 温 泉 分 析 書 別 表

1 源 泉 名 : 函館乃木温泉		
2 源 泉 所 在 地 : 北海道函館市乃木町69-15		
3 温 泉 分 析 申 請 者 : 札幌市中央区南3条西2丁目12番2号 株式会社 大東インターナショナル 代表取締役 丹山 春雄		
4 泉 質 : ナトリウム-塩化物泉 (等張性中性高温泉) (旧泉質名: 食塩泉)		
5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。		
浴 用	禁忌症	急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)。
	適応症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病。
飲 用	禁忌症	腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
	適応症	慢性消化器病、慢性便秘。
浴用、飲用の 一般的注意事項		<p>1 入浴の方法及び注意</p> <p>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</p> <p>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(3) 入浴中は運動浴の場合は別として、一般には安静を守ること。</p> <p>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</p> <p>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴(42℃以上)を禁忌とする。</p> <p>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</p> <p>(7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</p> <p>(9) その他</p> <p>2 飲用の方法及び注意</p> <p>(1) 飲用の1回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p>
平成 18 年 9 月 26 日		
		決定者 北海道立衛生研究所長 